

痩せずにメタボ治療

メタボから脱出する為には運動が必須とと思っていたのですが、将来、そんな努力をせずに済むかもしれません。

東京大学の門脇孝教授（糖尿病・代謝内科学）は、糖尿病やメタボリック症候群等の生活習慣病を防ぐ薬剤を開発し、短命な肥満マウスの寿命を延ばす事に成功したと発表しました（平成25年10月31日付北海道新聞）。

門脇教授は「肥満は、糖尿病の原因となり、がんや心臓病などのリスクを高める。この薬剤で生活習慣病を予防することで、健康長寿につながる事が期待される」と述べています（平成25年10月31日付北海道新聞）。また、同教授は、飲み薬を目指して5年以内に臨床試験を始めるとしていますので、おおいに期待されます。

肥満は何故良くないか。私も健康診断の度にあと5キロは痩せる様に指示されるのですが、なかなか思うように体重は減りません。そりゃそうだろうと思います。何せ、体重を減らす為に運動する等の努力をしていないのですから。

門脇教授の実験によると、マウスに高脂肪の食事を与え続けると120日後に7割が死ぬのだそうですが、同教授が開発した物質と一緒に吞ませると死亡率が3割に減ったとの事です（平成25年10月31日付読売新聞）。

肥満の人は「アディポネクチン」という脂肪細胞から分泌されるホルモンが減り、これが糖尿病等に繋がる事が知られていました。また、この「アディポネクチン」が不足すると、糖尿病以外にもがんや心臓病等も発症しやすくなるといわれて来ました。逆にいうと、「アディポネクチン」を薬として投与出来れば、そうした症状を改善できる事が期待される訳ですが、技術的に薬として量産する事は難しいとされて来ました（平成25年10月31日付読売新聞）。

こうした中、門脇教授は、数百の物質の中から「アディポネクチン」に似た物質を捜しだし投与したところ、マウスの死亡率が7割から3割という劇的な効果をもたらす事になりました。

もっとも、門脇教授が開発しようとしている薬は、心臓病の合併など運動や食事制限が出来ない人の為のものですから、私の様に、運動をしようと思えば出来る人間はちゃんと運動しなさい、という事でしょう。

薬をして、結果だけを求めるのは良くありません。子どもに対しては何時もそういっている事を、思い出しました。なお、「アディポネクチン」を飲ませたマウスは、長時間走り続けられる事も分かったそうですが、体重を減らす効果はないとの事です。念の為（平成25年10月31日付北海道新聞）。（塾頭：吉田 洋一）